5. 災害調査　八幡平地震雪崩災害調査（2015. 2. 19）

研究代表者	雪氷：阿部　修	実施期間	平成 26 年度
研究参加者	雪氷：小杉健二、北東北エリア雪崩事故研究会：平山順子		

［目　　的］

2015 年 2 月 17 日 8 時 6 分、三陸沖を震源とする M6.9 の地震が発生し、これにより誘発された雪崩が発見されたという報告が、研究参加者からあった。この雪崩による人的被害はなかった。本調査の目的は、現地の雪崩跡および積雪が時間とともに変質する前に災害調査を行い、雪崩の発生原因を明らかにすることにより、災害防止に資することである。

［実施内容］

2 月 19 日に八幡平アスピーテラインの御在所温泉から徒歩で雪崩発生現場に向かい、ロープで安全を確保した上で、発生区の破断面で積雪断面観測を行った（図 1、2）。種類は面発生乾雪表層雪崩で幅は約 150m であった。

図 1　雪崩破断面観測地点（+印）

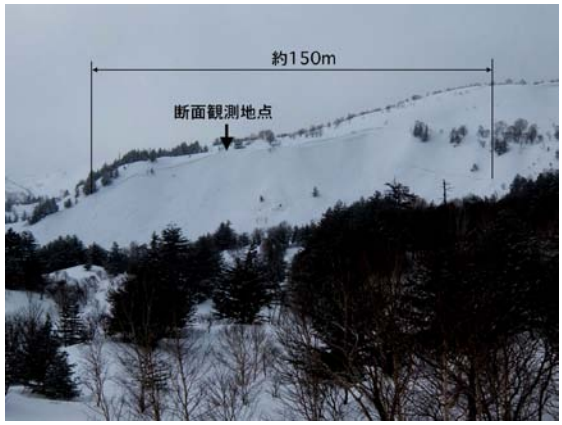

図 2　雪崩の発生区と破断面

［成果と効果］

雪崩は標高 1110m（最高点）、傾斜角約 40°、ほぼ東向きの樹木のない斜面で発生した。弱層は「こしもざらめ雪」であった（図 3、4）。過去の気象を遡ると、この斜面は 2 月 15 日にはすでに不安定になっていたと思われるが、地震が発生するまで、滑走した痕跡がなかったことから、人により誘発されることはなかった。もし地震が無ければ、不安定性はその後しばらく持続したと推測されることから、地震により誘発されたことにより雪崩発生の危険性が除去された例となった。なお、この付近の震度は 3 程度であったが、今後、地震波形との関連を解析する予定である。

図 3　雪崩の破断面

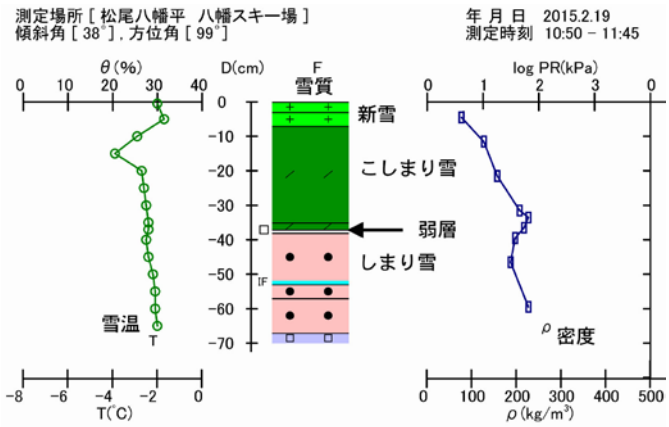

図 4　破断面における積雪断面観測結果